

キタコブシ賞 2022



撮影 / 川辺明伸 協力 / TOTO通信

2022年受賞 藤塚 光政 (写真家)

ふじつか みつまさ

Profile (略歴)

写真家。1939年東京都生まれ。東京写真短期大学卒業。月刊『インテリア』編集部を経て1965年独立。大型カメラが主流であった建築写真界で35ミリカメラを駆使し、周辺環境や人間を含めた建築のライブな姿を記録。「2017毎日デザイン賞・特別賞」受賞。2022年ベルリンにて「日本木造遺産」展を開催。

著書に『どうなってるの?身近なテクノロジー』(新潮社 2002)、共著書に『意地の都市住宅』(ダイヤモンド社 1987)、『詠み人知らずのデザイン』(TOTO出版 1987)、『建築リフル』(全10巻 TOTO出版 1995)、『藤森照信・特選・美術館三昧』(TOTO出版 2004)、『BRIDGE』(大野美代子作品集 鹿島出版会 2009)、『SENDAMAN 1000』(仙田満作品集 美術出版社 2011)、『木造仮設住宅群』(ポット出版 2011)、『日本木造遺産』(世界文化社 2014)、『JAPAN'S WOODEN HERITAGE』(JPIC 2017)、『日本の住宅遺産』(世界文化社 2019)、『中心のある家 建築家・阿部勤自邸の50年』(学芸出版社 2022)など。

「キタコブシ賞」授与について

藤塚光政氏は日本を代表する建築写真家である。北海道の現代建築との縁は深く、1970年代より札幌出身の建築家竹山実氏の北海道での作品をはじめ、釧路出身の建築家毛綱毅廣氏の釧路での一連の作品の撮影を担当した。また多くの道内建築家たちの作品の撮影を通し、国内外の雑誌・メディアへの掲載に尽力されている。

今回の展覧会でも竹山実、毛綱毅廣、圓山彬雄氏らの写真は藤塚氏の撮影によるものである。四十年以上にわたり、今なお势力的に北海道を訪れファインダーを覗く日々が続いている。この様に北海道の建築文化成熟に大きく貢献されていることからこの度の授与となった。

小西 彦仁

公益社団法人日本建築家協会理事
北海道支部 支部長